

安全データシート

パラクリーナーS

作成日:2011年4月1日

改訂日:2020年10月1日

1. 製品及び会社情報

製品名	パラクリーナーS
製品コード	401-200-4、401-200-5
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
FAX番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	tokyo@falma.co.jp
緊急連絡先	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	実験室用:パラフィン除去剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分4
	誤えん有害性	区分1

上記以外の項目は、分類対象外又は分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	可燃性液体 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
注意書き	
安全対策	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
応急措置	飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。 無理に吐かせないこと。
保管	容器を密閉し、換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。
廃棄	関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	Aliphatic hydrocarbons(脂肪族炭化水素)
官報公示整理番号	なし

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を水で洗うこと。 皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。 眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
飲み込んだ場合	すみやかに口をすすぎ、無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤	二酸化炭素、粉末、水、泡。
特有の危険有害性	燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災時に刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 容器が熱に晒されているときは、移動させない。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	作業の際には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。 すべての発火源を速やかに取除く。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収し、 化学品廃棄容器に入れる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	作業場には全体換気装置、局所排気装置、洗眼器、安全シャワーを設置すること。火気厳禁。
安全取扱注意事項	炎や高温のものから遠ざけること。

<p>衛生対策</p> <p>保管</p> <p>安全な保管条件</p>	<p>保護衣、保護手袋、保護眼鏡などを着用すること。</p> <p>取扱い後は手などをよく洗うこと。</p> <p>容器を密閉して換気の良い涼しい場所で施錠して保管すること。</p>
<p>8. ばく露防止及び保護措置</p>	
<p>管理濃度</p> <p>許容濃度</p> <p>設備対策</p>	<p>未設定</p> <p>未設定</p> <p>貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p> <p>作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。</p>
<p>保護具</p>	
<p>呼吸用保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具</p>	<p>必要に応じ、有機ガス及び蒸気用フィルター付きマスクなどの呼吸用保護具を着用すること。</p> <p>保護手袋を着用すること。</p> <p>保護眼鏡を着用すること。</p> <p>必要に応じ、長袖作業着、保護長靴を着用すること。</p>
<p>9. 物理的及び化学的性質</p>	
<p>物理的状态</p>	
<p>形状</p> <p>色</p> <p>臭い</p> <p>pH</p> <p>融点・凝固点</p> <p>沸点</p> <p>引火点</p> <p>蒸発速度(酢酸ブチル=1)</p> <p>燃焼性(固体、ガス)</p> <p>爆発範囲</p> <p>蒸気圧</p> <p>蒸気密度</p> <p>比重(密度)</p> <p>溶解度</p> <p>オクタノール・水分配係数</p> <p>自然発火温度</p> <p>分解温度</p> <p>粘度(粘稠性)</p>	<p>液体</p> <p>無色透明</p> <p>ほとんどなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>>60°C</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>0.76(水=1)</p> <p>水に不溶</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p>

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下で安定。
化学的安定性	常温、常圧下で安定。
危険有害反応可能性	強酸及び過酸化水素（漂白剤）と混触すると、発火する危険性がある。
避けるべき条件	加熱により容器が爆発する可能性がある。引火点以上では可燃性ガスが発生する。
混触危険物質	強酸、過酸化水素（漂白剤）
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素（許容濃度 50 ppm）、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットにおける LD ₅₀ 値 >5000 mg/kg に基づき区分外。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	データなし
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	ヒトが炭素数 6～16 の脂肪族炭化水素を直接吸入すると、肺炎、肺の水腫および出血を起こす可能性がある（HSDB (2003)）ことから区分 1。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	データなし
水生環境有害性（長期間）	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	3295
国連品名	Hydrocarbon Liquid, N.O.S.
国連危険有害性クラス	3
容器等級	III

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
注意事項	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう、積み込み、荷くずれの防止を確実に 行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	危険物・引火性の物
消防法	第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。